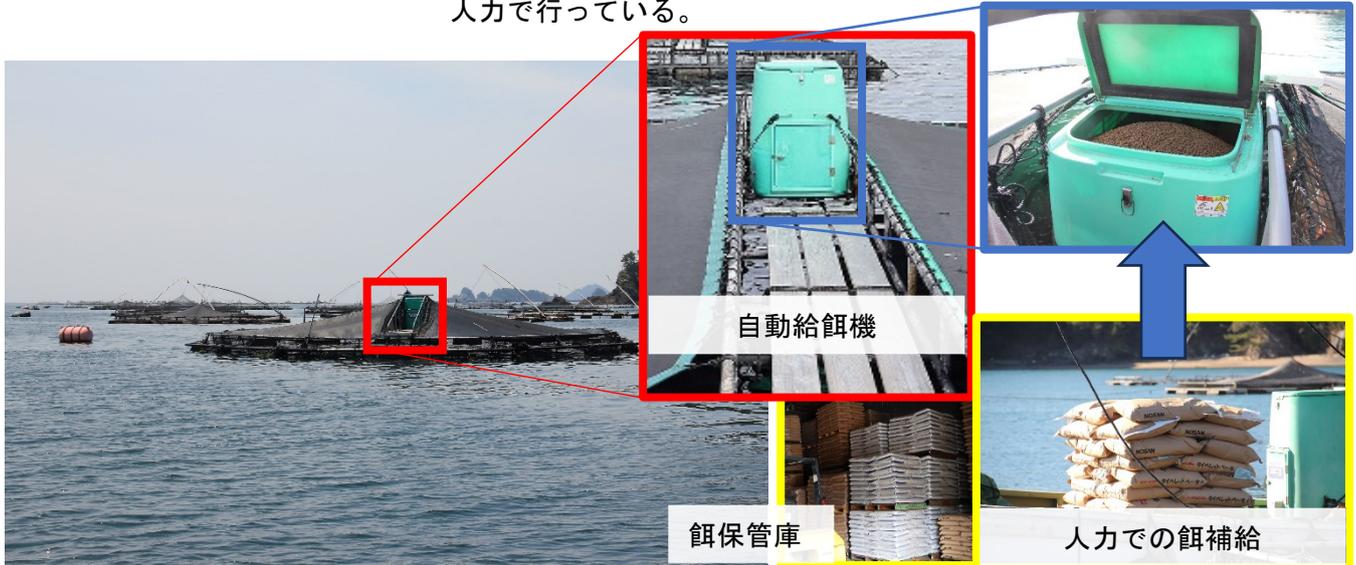


【事業名】自動給餌機への餌補給船—ロボット漁船—の実機開発と実海域実証試験
 (株) ロボティクスセーリングラボ

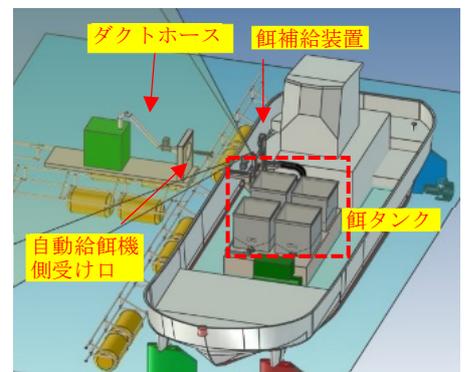
I. 課題

- ・有給餌養殖における自動給餌機⇒都度の餌やりの労働軽減、人工知能等の導入により残餌の問題を解決。
- ・課題は養殖事業者の労働軽減⇒30 個程の生け簀を保有する養殖事業者が一つの給餌機約 400kg 程度の餌補給を週に 3~5 回程度行っている。毎回 12ton 程度の餌補給を人力で行っている。



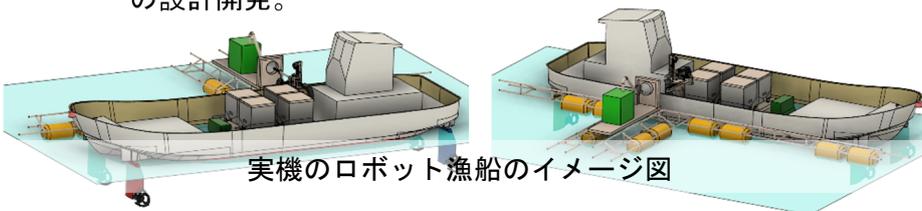
II. 課題解決方法と技術シーズ

- ・ロボット漁船により自動給餌機への餌補給の自動化を実現。
 ⇒餌を載せたら生け簀に自動航行し、自動着岸・自動係船し、画像認識等により自動給餌機側に取り付けられた受け口を見つけ、餌補給ノズルを制御し自動給餌機にエアを用いて餌補給。
- ・技術シーズ⇒独立して回転可能な機構を有する4つのストラット付きスラスタ。これにより生け簀への自動着岸を容易に実現。



III. 事業期間中実施内容

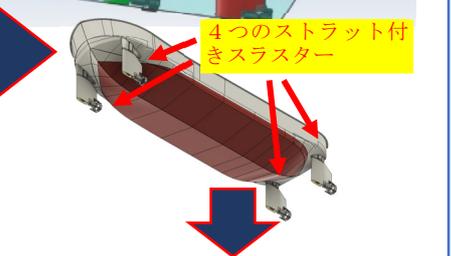
- ① 7m ロボット漁船の実証機の開発と詳細設計
- ② 7m のロボット漁船の製造及び販売・サービス価格の検討
 ⇒漁業者に経済的なメリットが生まれるようなロボット漁船の設計開発。



実機のロボット漁船のイメージ図

③ 実海域試験

⇒自動餌補給までの一連の流れが可能であることを検証。操作アプリケーションを開発し、ロボット漁船のモニタリングや1人でも容易に操作可能にする。



1/7 モデルでの PoC (2022 年度)